

精神科研修 河野名島病院

一般目標(オリエンテーション)						
精神科での研修では、精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、精神科外来又は精神科リエゾンチームでの研修を含みます。なお、また、すでに診断のついた慢性期の患者だけでなく、急性期の入院患者の診療を行うことが望ましい。 河野名島病院						
1.精神保健福祉法の基本を理解する 2.代表的な疾患の特徴を理解する 3.専門医による治療の必要性の有無を判断できる 4.薬物療法の実際を理解する 5.基本的な生活指導を行える 6.患者との治療関係を理解する						
行動目標						
B-1医学・医療における倫理性	①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。 ②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。 ③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。 ④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。					
B-2医学知識と問題対応能力	①頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。 ②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。 ③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。					
B-3診療技能と患者ケア	①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。 ②患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。 ③診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。					
B-4コミュニケーション能力	①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。 ②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。 ③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。					
B-5チーム医療の実践	①医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。 ②チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。					
B-6医療の質と安全管理	①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。 ②日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。 ③医療事故等の予防と事後の対応を行う。 ④医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。					
B-7社会における医療の実践	①保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。 ②医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。 ③地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。 ④予防医療・保健・健康増進に努める。 ⑤地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。 ⑥災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。					
B-8科学的探究	①医療上の疑問点を研究課題に変換する。 ②科学的研究方法を理解し、活用する。 ③臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。					
B-9生涯に渡って共に学ぶ姿勢	①急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。 ②同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。 ③国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。)を把握する。					
研修の方略(LS)						
週間スケジュール		月	火	水	木	金
時間						
午前	外来診察		朝礼(隔週)	病棟業務	病棟業務	病棟業務
	隔離診察		デイケア参加	外来診察	外来診察	外来診察
	病棟業務		OT参加			
午後	病棟業務		病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
	外来診察		外来診察	外来診察	外来診察	外来診察
	医局会参加					
外来診療に関する業務		指導医の担当患者を、副主治医として同席する				
病棟業務		○指導医の担当患者を、副主治医として各病棟週に1回ずつ単独で診察する ○新患があればPSWと共に予診を行う。				
カンファレンス		医局会でのケースカンファレンスに参加する				
その他		緊急時対応・学術活動等				

経験可能な症候(経験すべき症候29症例中20症候)		
1	ショック	○
2	体重減少・るい瘦	○ 摂食障害の入院治療を経験し診断と初期治療ができる
3	発疹	
4	黄疸	
5	発熱	○
6	ものの忘れ	○
7	頭痛	○
8	めまい	○
9	意識障害・失神	○
10	けいれん発作	○
11	視力障害	○
12	胸痛	○
13	心停止	○
14	呼吸困難	○ 過呼吸症候群の初期治療ができる
15	吐血・喀血	
16	下血・血便	
17	嘔気・嘔吐	○
18	腹痛	○
19	便通異常(下痢・便秘)	○
20	熱傷・外傷	
21	腰・背部痛	
22	関節痛	
23	運動麻痺・筋力低下	○
24	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	○
25	興奮・せん妄	○ せん妄を診断し、初期治療ができる
26	抑うつ	○
27	成長・発達障害	○
28	妊娠・出産	
29	終末期の症候	
経験可能な疾病・病態(経験すべき疾病・病態26疾病・病態中5疾病・病態)		
1	脳血管障害	○
2	認知症	○
3	急性冠症候群	
4	心不全	
5	大動脈瘤	
6	高血圧	
7	肺癌	
8	肺炎	
9	急性上気道炎	
10	気管支喘息	
11	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	
12	急性胃腸炎	
13	胃癌	
14	消化性潰瘍	
15	肝炎・肝硬変	
16	胆石症	
17	大腸癌	
18	腎盂腎炎	
19	尿路結石	
20	腎不全	
21	高エネルギー外傷・骨折	
22	糖尿病	
23	脂質異常症	
24	うつ病	○
25	統合失調症	○ 統合失調症の急性期治療を経験し、初期の管理ができる。
26	依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)	○ アルコール離脱症候群などの急性期治療を経験し、初期の管理ができる。

経験可能な臨床手技	研修医1年次			研修医2年次		
	単独可能	単独不可		単独可能	単独不可	
		事前確認	指導医立会		事前確認	指導医立会
体位変換						
移送						
皮膚消毒						
外用薬の貼布・塗布						
気道内吸引・ネブライザー						
静脈採血						
胃管の挿入と抜去						
尿道カテーテルの挿入と抜去						
注射(皮内、皮下、筋肉、静脈内)						
中心静脈カテーテルの挿入)						
動脈血採血・動脈血)						
腰椎穿刺						
ドレーンの挿入・抜去						
全身麻酔・局所麻酔・輸血						
眼球に直接触れる治療						
①気道確保						
②人口呼吸(バッグ・バルブ・マスクによる徒手換気含)						
③胸骨圧迫						
④圧迫止血法						
⑤包帯法						
⑥採血法(静脈血、動脈血)						
⑦注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)						
⑧腰痛穿刺						
⑨穿刺法(胸腔、腹腔)						
⑩導尿法						
⑪ドレーン・チューブ類の管理						
⑫胃管の挿入と管理						
⑬局所麻酔法						
⑭創部消毒とガーゼ交換						
⑮簡単な切開・排膿						
⑯皮膚縫合						
⑰軽度の外傷・熱傷の処置						
⑱気管挿管						
⑲除細動等						
血液型判定・交差適合試験						
動脈血ガス分析(動脈採血を含む)						
心電図の記録						
超音波検査						
評価(Ev)						

研修医評価票を用いて、下記のとおり評価する。

A.医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)について、到達目標における医師としての基本的価値観4項目を評価する。

B.資質・能力について、研修修了時に習得すべき包括的な資質・能力9項目について評価する。

C.基本的診療業務について、研修修了時に身に付けておくべき4つの診療場面(一般外来診療、病棟診療、初期救急対応、地域医療)における診療能力について評価する。